

活用事例	③ 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】保護者や見守り隊の協力による避難時の安全確保		
学校名	柳井市立小田小学校		
日時	平成25年5月14日(火) 1・2時間目		
場所	体育館及び避難場所	参加者	児童・教職員及び下関地方気象台職員

1 訓練のねらい

地震や津波に対する正しい知識を身に付けさせるとともに、緊急地震速報が発令された際に、落ち着いて行動し、津波の襲来に備え安全に避難できる実践力を養う。

2 訓練の概要

(1) 下関地方気象台職員による講話・実験

訓練前に、下関地方気象台の方から地震津波が発生するメカニズムについての説明をしていただいた。その後、模型を使って、地形による津波の大きさの変化や破壊力についての実験を行っていただいた。



(2) 緊急地震速報の放送

各教室に児童がいる状態で、緊急地震速報を校内放送で流した。

児童は、学級担任の指示により、直ちに机の下にもぐり、身の安全をはかった。



(3) 津波に備えた避難

地震が収まった後、津波の襲来に備え、高台へと避難を行った。

① 第一次避難

教室から校舎玄関前に集合し、児童の安全確認を行った。



② 第二次避難

学校から、およそ400m先の高台へと移動を開始した。約7分後には安全に避難を完了した。その後、校長による講評を行った。



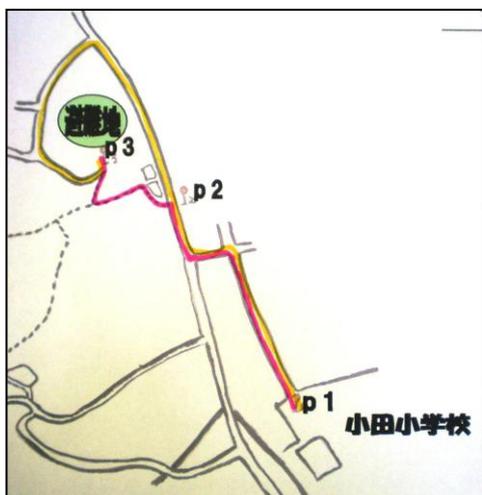
(4) 保護者、地域との連携

第二次避難場所への移動の際には、保護者や地域の見守り隊の方々交通安全の確保を行っていただいた。



(5) 保護者、地域への発信

学校便りを通じて、避難訓練の予告と協力の依頼を行った。また、避難経路と避難場所を地図で周知した。



(6) 避難経路の整備

定期的に保護者や地域の方と校区内の安全点検、整備を行っているが、学校から第二次避難場所である高台までの道は特に気を配っている。保護者や地域の方も避難経路であることを知っておられ、日頃から整備を行ってくださっている。

(7) 第二次避難場所の複数確保

地震発生による崖崩れ等で、予定していた第二次避難場所までの経路が通行できないことも予想される。そのため、多少遠回りになっても、より安全に通行できる経路を設定している。また、代替地として、地元企業の敷地を使わせていただくことを了承していただいている。生活科では、児童が訪問し、準備されている避難用具の説明をしていただいた。



さらに、長期間の滞在や保護者への引き渡しに備え、高台の寺を最終避難場所としている。

3 訓練の成果と課題

南海トラフの巨大地震モデル検討会の報告によれば、柳井市には最大で5mの津波が押し寄せることが予想されている。本校は、海岸に近く、海拔が2.5mと予想される最大津波高よりも低いため、地震発生後には、津波に備え、高台への速やかな避難が必要である。

今回の訓練では、気象台職員による講話や実験によって、地震や津波に対する正しい知識を身に付けさせることができた。また、緊急地震速報が発令された際の身の守り方や避難経路を確認することができた。

学校便り等を通じて、保護者・地域へ事前連絡を行ったことで、防災教育に対する学校の取組を知らせることができたとともに、協力をいただくことができた。

これからも引き続き、保護者・地域との連携を深めながら、地域が一体となった防災教育に努めていきたい。